

牛久：学校周辺に見る自然

第25号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月9日発行

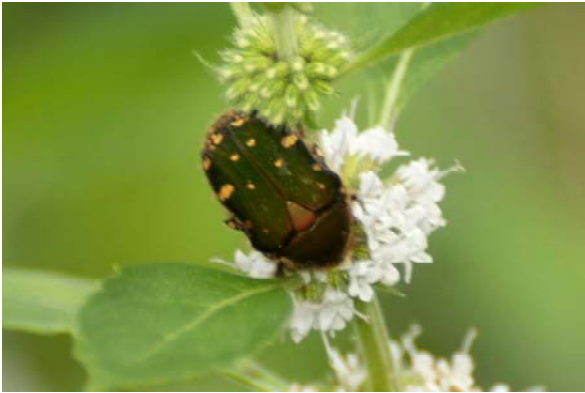
< 動物のすみか ～ ① 甲虫類(こうちゅうるい) >

皆さん、こんにちは。先日9/27にひたち野うしく小3年1, 3組と、10/4には4, 5組とみずべ公園を歩いてきました。テーマは「動物のすみか～昆^{こんちゅう}虫などの動物は、それぞれどのような場所において何をしているか?」です。2組は学級閉鎖^{がっきゅうへいさ}の関係で10月後半に延期^{えんき}の予定なので、ここでとりあえず他のクラスで見られた生きものたちを紹介^{しょうかい}することにします。まずは、甲虫(こうちゅう)の仲間から。



よく見つけたね! とても小さな、ナナホシtentウのさなぎ(左)と幼^{ようちゅう}虫(右)。中指^{なかゆび}の大きさとくらべてみよう。

春にはヒキガエルのおたまじゃくしでまっ黒になる池の入口で、草の葉にtentウムシの幼^{ようちゅう}虫やさなぎがたくさんついているのを見つけてくれました。tentウムシにもいろいろな種類^{しゅるい}がありますが、これはナナホシtentウ。成虫だけでなく、幼^{ようちゅう}虫やさなぎも種類^{しゅるい}によって色やもようが違^{ちが}います。



ゆるい坂を池^{いけ}に降りて行くと、ハッカの花^{はな}が咲^さいていました。春には4年生が、葉^はのかおりをかいだ草^{くさ}です。花^{はな}にはチョウやハチ、ハナアブなどがたくさん集^あまっています。よく見ると、コアオハナムグリもいます。花^{はな}にもぐるようにして花粉^{かふん}を食べていました。からだにはたくさんの花粉^{かふん}がついています。

ハッカの花^{かふん}粉^{ふん}を食べる、コアオハナムグリ。



池のちょうど反対側^{えだ}に、シダレヤナギがあります。枝^{えだ}がたれ下^{くだ}がるので「枝垂^{しだ}れ」ですが、葉^はには黒く光^ある甲^{こう}虫^{ちゅう}のなかまがたくさんついでいました。パッと見ると黒いtentウムシのようですが、ハムシのなかまでヤナギリハムシ。ヤナギの葉^はを食べるり色の虫^{むし}なので、この名^ながついたのでしょう。さきほどのコアオハナムグリは、小さくて緑色^{こあおはなむぐ}で花^{はな}にもぐるようにして食べるから「小青^{せうせい}花^{はな}潜^{ひそ}り」。このように、生きもの^{いきもの}の名^な前^{まえ}には、その形^{かたち}や生活^{くわつ}のし方^{かた}などの特^{とく}ちょうから名^な前^{まえ}がついたものもけっこうたくさんいます。日本^{にっぽん}での名^な前^{まえ}、和名^{わめい}はカタカナで書^かくというルール^{きそ}がありますが、漢字^{かんじ}で表^{あらわ}してみるとその名^なの由来^{ゆらい}が分^わかたりすることも多いです。図鑑^{ずかん}などで調^{しら}べるときには、いっしょに調^{しら}べてみるとよいでしょう。

シダレヤナギ(枝垂^{しだ}れ 柳^{やなぎ})の葉^はを食べる、ヤナギリハムシ(柳^{やなぎ}璃^り葉^は虫^{むし})。



池の北側、あずまやでは、大きな白い幼虫^{ようちゆう}がころがっているのを見つけてくれました。クワガタの幼虫^{ようちゆう}じゃないかなど、いろいろ意見が出ましたね。あまり自信はありませんが、たぶんアオドウガネという成虫^{せいちゆう}が広葉樹^{こうようじゆ}などの葉を食べるコガネムシのなかまでしょう。幼虫^{ようちゆう}は、土の中で植物^{しょくぶつ}の根^ねなどを食べて育つ^{そだつ}そうで、サツマイモなども食べてしまうようです。

植物^{しょくぶつ}の根^ねなどを食べて育つ^{そだつ}、アオドウガネの幼虫^{ようちゆう}。



池の西側では、クズのつるに変わった虫^{むし}を見つけました。口先が長くパンダもようの、オジロアシナガゾウムシ^{おしろうし}。名前^なの由来^{ゆらい}は？ 考えてみましょう。このゾウムシ^{むし}は身^みの危険^{きけん}を感じると落ちて死んだふりをしますが、足^{あし}を縮めてじっと動かないでいると鳥^{とり}の糞^{ふん}のようにも見え、それで敵^{てき}の目^めをごまかしていると言われます。めすはクズの茎^{くき}に傷^{きず}をつけ、卵^{たまご}をうみつけます。

クズのつるにいた、オジロアシナガゾウムシ。



最後に下見^{したみ}の時に見つけたクヌギシギゾウムシ^{くぬぎしぎずむし}。産卵^{さんらん}のために穴^{あな}を開けていました。穴^{あな}を開けられるやわらかいところを探しながらドングリ^{どんぐり}の上を歩きまわっていましたが、最後^{さいご}には写真^{しゃしん}の場所に穴^{あな}を開けていました。それにしても、長い口吻^{こうふん}（こうふん）ですね。その途中^{とちゆう}から触角^{しよつかく}が出ているのもおもしろい。持ち帰ったドングリ^{どんぐり}から白い幼虫^{ようちゆう}が出てきたら、このゾウムシの子たち^こかもしれません。【理科支援員^{りか}：宮内^{みやうち}】

産卵^{さんらん}のためドングリ^{どんぐり}に穴^{あな}を開けるクヌギシギゾウムシ。

